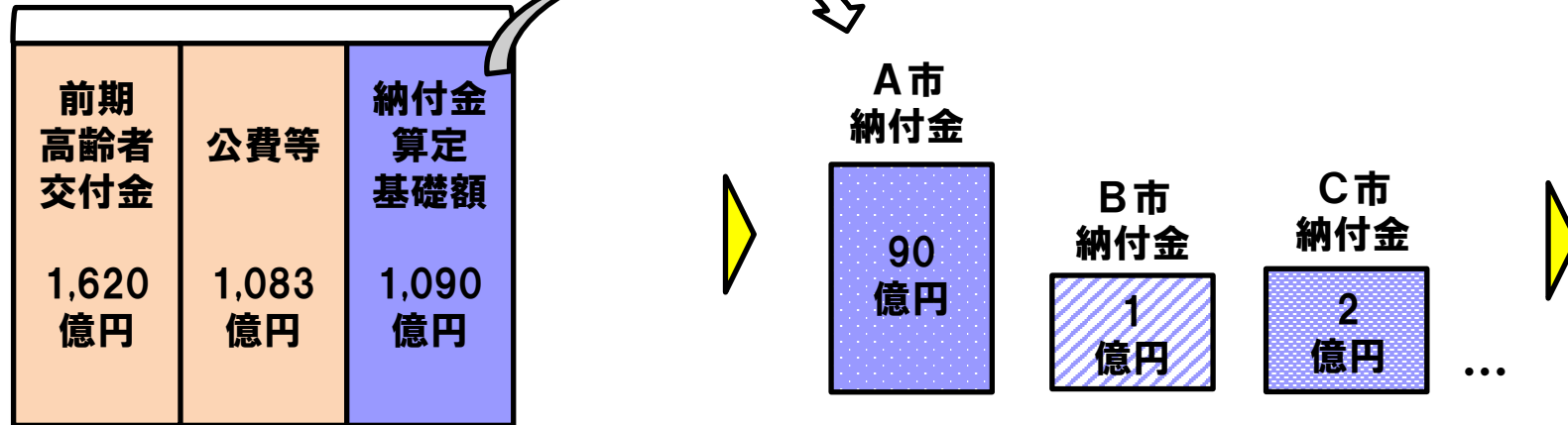


納付金・市町村標準保険料率算定のイメージ

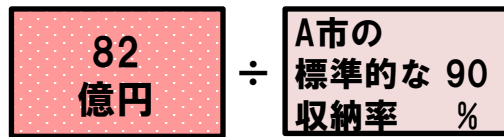
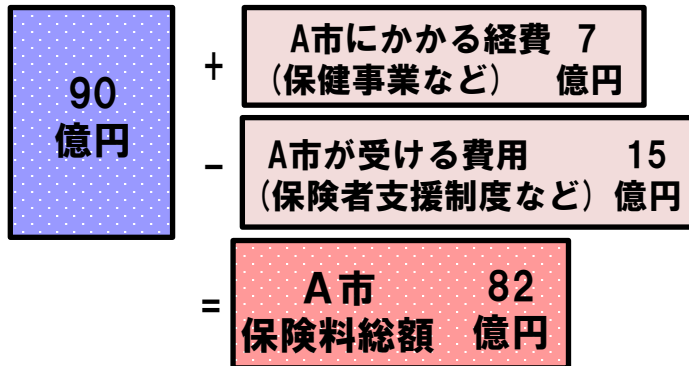
保険給付費 (一般分・医療分)
 県総額：3,793億円



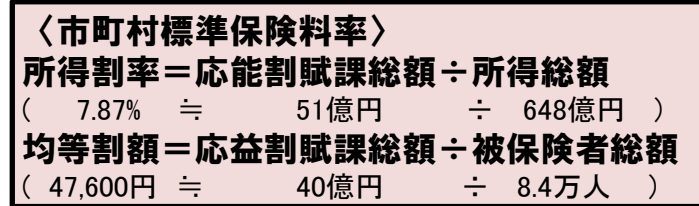
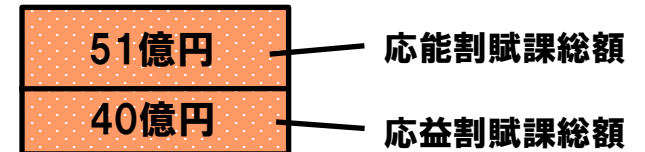
① 保険給付費から前期高齢者交付金や公費等を控除して納付金算定基礎額を算定。

② ①を所得や人数のシェア、医療費水準に応じて各市町村に配分し、各市町村の納付金を算定。

A市



91億円



③ ②に市町村ごとの経費や補助金等を加減算し、保険料総額を算出

④ ③に標準的な収納率を割り戻し、調整後保険料総額を算出

⑤ ④を各市町村の所得や人数のシェアに応じて分割した上で、それぞれ標準保険料率を算出

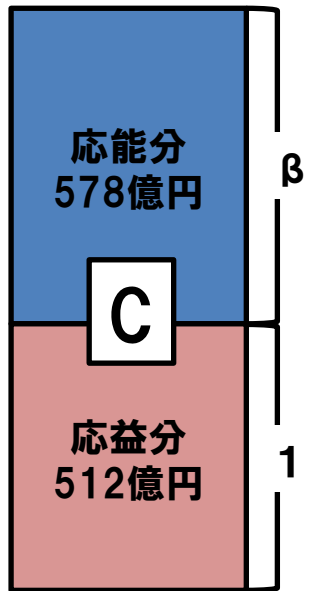
納付金の各市町村への配分イメージ（上記②の配分方法）

$$c = C \times \{ 1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1) \} \\ \times \{ \beta \cdot (\text{所得のシェア}) + (\text{人数のシェア}) \} / (1 + \beta) \\ \times \gamma$$

- c：各市町村ごとの納付金基礎額
- C：納付金算定基礎額
- α：医療費指数反映係数（ $0 \leq \alpha \leq 1$ ）
- β：全国平均と比較した県の所得水準（全国平均のとき $\beta = 1$ ）
- γ：総額をCに合わせるための調整係数

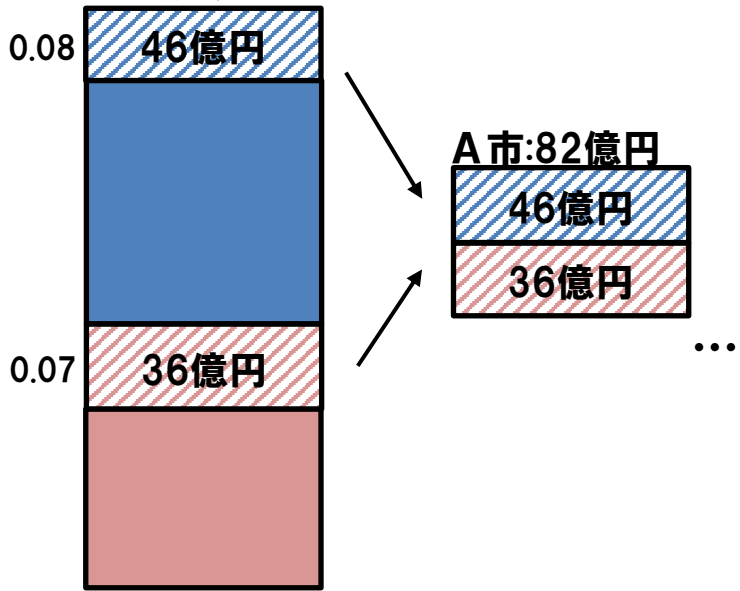
	県	A市	...
所得総額 (シェア)	7,710億円 (1)	638億円 (0.08)	
人数 (シェア)	113万人 (1)	8万人 (0.07)	
年齢調整後の 医療費指数	0.92	0.93	

県総額:1,090億円

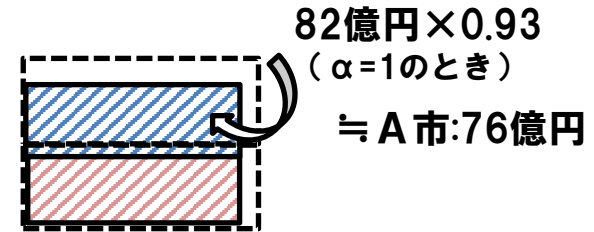


① Cをβ:1に配分例) β=1.13

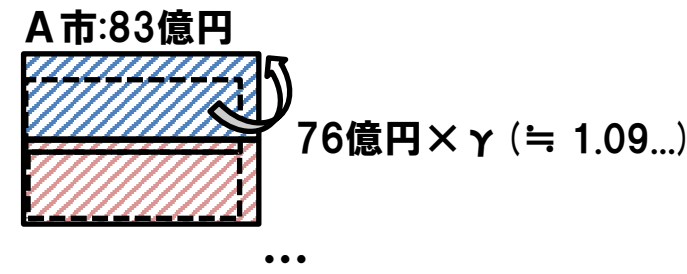
県総額:1,090億円



② ①のうち、応能分を所得のシェア、
応益分を人数のシェアに応じて各市町村に配分



③ ②に $\{ 1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1) \}$ を乗算



④ ③の各市町村合計がC（1,093億円）と等しくなるよう、全市町村の③にγを乗算